



•Tackle Guide

仕掛けは本文で書いたように水温の低い時期は胴つき仕掛けがおすすめ。その場合、リールはスピニングより小型両軸のほうが道糸の出し入れが容易で扱いやすい。竿はキス専用で硬めは誘いの動作がしやすい、柔らかめは食い込みがいい、といった特徴があるので、自分の釣りスタイルに合わせて選択したい。

で最も実績の高い中ノ瀬の水深20メートルラインだ。さっそくエンジン流しのスタイルで「準備のできた方から始めてください」と開始の合図が出た。当日は席に余裕があることから釣友の隣君以外は皆さん2本竿でトライ。開始早々に右舷トモ2番の大西さんが18



▲東京湾のシロギスはこれからが本番

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
これから楽しみ!

# 釣りどきレポート

Best Season Report

今号発売は4月1日。関東ではすでにサクラも満開となって春本番。天候も徐々に穏やかになっていく。これからの季節は船釣りにもうってつけた。

●東京湾奥葛西橋発↓中ノ瀬

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

## 本格シーズンの腕試し!? 春のシロギスはムズ面白い

私的に沖釣り入門にぜひともおすすめしたいターゲットが東京湾のシロギス。東京湾は波も穏やかなので初心者にとって一番心配な「酔い」のリスクが少ない。出船時間が遅めなので特別早起しなくても済む。ポイントの水深が浅く軽量タックルで釣りができ、道具は船宿でレンタル可能。さほど釣りの知識がなくともある程度の釣果が見込める。そして、何よりも釣ったキスの天ぷらは格別においしい。

### 出足は好調だった

当日は平日でもあることから乗船者は私たちを含めて6名で、第二泉水も今日が今シーズンのシロギス初出船とのこと。

私がお客さんたちに取材のあいさつをして回っていると、「つり情報さんにはお世話になっております」と名刺を差し出してきたのが本誌で何度か紹介されている大西釣具工房の大西了路さん。

### 知得! シロギス豆知識

パールピンクの美しい魚体から海の女王と呼ばれるシロギス。その体色は生息域である砂場の保護色となっている。長い顔は砂の中にいる獲物を口から海水を吹いて探し出せるように進化したもので、細長い体は危険を察知したら砂の中に潜るのに適している。昔は「鼠頭魚」と書いてキスを表すこともあったようで、これは頭部がネズミの頭に似ていたこと由来。漢字1字だと「鯧」で、昔から庶民たちが喜んで釣りをしていた様子がうかがえる。



とはいえ、シロギスは初心者向けの釣りだけではない。数を釣るためには状況に応じた色いろな誘い方を駆使するテクニカルな面もあるのだ。私もそんなシロギス釣りが大好きで「釣りはシロギスに始まり、シロギスで終わる」と感じている次第。

大西さんの工房ではカワハギ、マルイカ、シロギスなど比較的軽いオモリを使う釣りに特化したタックルを製作しており、今日は自作のシロギ

ス竿の調子を検証しに來ていたようだ。7時になって黒澤正敏船長の操船で出船。50分ほどの航程で到着したのは、この時期

### テンピン仕掛けて挑む

この調子でバンバン釣れるかと思いきや、その後はポツリポツリとした展開が続く。そんな中、一人異次元ともいえる釣りっぷりを発揮していたのは大西さんだ。「この時期は一年で一番水温が低いのでシロギスが果敢に

エサを追わないから、テンピン仕掛けより胴つき仕掛けのほうが断然有利ですよ」と、皆さんが苦戦する中一人ポツリとシロギスを釣り続ける。大西さんは小型両軸リールをセットしたタックルを1本は船下に、1本は軽くキャスト。両手に持った竿を操る姿はアナゴ釣りに似ており、誘い方はカワハギ釣りに近いイメージだ。

までサビいてきても魚信がこなかったもので、その場で50センチほど仕掛けを浮かせてクイックイットと誘いを入れるとビビッときた。抜き上げたのは20センチのシロギスだったが、釣れたキスに触ってみるとその冷たさにビックリ。底潮がかなり冷え込んでいるようで、それも食いの渋さにつながっているのだろう。

キスが掛かったかと思ったら釣れ上がったのは25センチもあるメゴチだった。東京湾のメゴチは今ではめったに釣れなくなりましたが味はシロギスに劣らないので大事にキープする。12時を過ぎて上げ潮が効き始めるとキスの活性が上がったのか皆さん数をのばし始めたものの、残念ながら午後2時に沖揚がり。

この調子でバンバン釣れるかと思いきや、その後はポツリポツリとした展開が続く。そんな中、一人異次元ともいえる釣りっぷりを発揮していたのは大西さんだ。「この時期は一年で一番水温が低いのでシロギスが果敢に

その後サビいてくる途中でブルブルときてもハリ掛かりしない場合が多い。普段なら再びアタックしてくるのだが、それっきりで終わってしまった。なるほど、大西さんの言っていたのはこのことか。それでも拾うようにしてシロギスを釣ってはいったのだが、ペースは大西さんの半分ほど。するとこれまでにない手応えがあり、ようやくダブルで

釣果は15〜22センチのシロギスが一人11〜15尾と今一歩だったものの、この記事が出るころには水温も上昇、キスの活性も上がることだろう。手軽で小気味よい引き味も楽しく、食べておいしいシロギス釣り。みんなで出かけてみてはいかがだろうか。

▼大西さんはさすがの腕前でダントツの竿頭



### ●船宿information

東京湾奥葛西橋  
**第二泉水**  
☎03-3645-2058  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=シロギス乗合一人 9500円。  
付けエサ、氷付き。仕掛け1組サービス  
▶備考=出船7時、沖揚がり14時。無料駐車あり。  
ほかライトアジへも出船



黒澤 正敏船長

●すずき よしかず/昼食べた料理と同じものが晩飯に出るとすごくうれしそうな顔を  
する女房。もしや忍者を雇って私が何を食べたか探らせているのか?